

栗ヶ岳山行記録



栗庭ノ頭の登り

砥沢避難小屋

目的地	栗ヶ岳（砥沢避難小屋まで：長靴山行）	期 日	平成21年1月22日（木）・終日曇
山人	笠原正雄・高橋誠一（以下T：敬称略）	特 記	有雪期にもう一度登ってみる。

地 点 名	時 刻	記 事
最終除雪地点	7:45 発	Tとここで待ち合わせる。他に駐車無し。曇で気温は高い。壺足で雪に上がる。前日の降雨や高気温で時々抜かる。途中仮設トイレを利用。
杉 の 林	8:20	堰堤を渡り、ダム沿いの夏道から右手の林に上る。一つ間違った。強引に直進急降下して、小沢を渡った、正しい杉林登路に復帰する。杉林の上がりに踏み跡があったが、一度間違ったので夏道の通りダム脇を進む。
藪から正規路へ	8:40	今度は夏道の登り口を錯誤し、行き過ぎてしまった。結果的には戻った方が早かったのだが、ここも強引に雪藪斜面を斜登高してルートに上る。早くも大汗。
カンジキを履く	9:00	5分前に、上部3文字だけが露出している「中央登山道」標柱を過ぎて、カンジキを履く。Tも手前で履き、追いついて来た。
3 合 目	9:30	主尾根に上がって立ち休み。ベンチは雪の下。北に宝蔵山、白山。振返って袴越山、その先に守門岳が薄く見える。周囲の山々や平野が墨絵のようで美しい。
4 合目小ピーク	9:55	標柱は見当たらないが、Tからここだと教えてもらう。山頂が見えて来た。
大 枳 平	10:05	北峰、中峰、山頂が背後の曇り空にとけ込んでいる。予報は晴マークであったのだが、なかなか太陽が出てこない。
栗 庭 ノ 頭	11:00	鎖場の手前で三条からの単独者に追い越される。彼とTは2本杖のまま鎖場を上った。俺はピッケルで帰りを考えて足場を作りながら登る。登りを終えてこのピークに立つ。三条男が高速で先を行く。この先の斜面登りが要注意だ。右急傾斜が下まで続いている。そしてザレ目の雪の保持力が弱い。
砥 沢 避 難 小 屋	11:30	脇に到着する。小屋の庇まで雪が連なっていた。三条男が北峰の登りに入っている。アンパンを食べ、Tからミカンをご馳走になる。妻に手間取っているとTEL。
小屋でランチ		山頂までの往復、下山の時間等を考えるとこの先へ向かうのは少しタイトである。ここままで所期の目的は果たせし、十分と思ひ撤退を提案する。Tの賛同も戴いた。西側の入口が掘られていて、備え付けのスcoopで少し除雪をして中に入る。小テーブルと毛布を使わせてもらい。水割缶を飲む。Tはノンアルコール。湯を沸かし、和寿司弁当でランチ。山の話や、よもやま話で楽しい時を過ごす。
小屋を出て下山	13:00	小屋を出ると三条男が北峰を下っている。我々が下り始めると間もなく彼が追付いて来た。この後3人で話しながら下る。斜面急降下は少し腰が引ける。一度足を滑らせて尻をついたが、腐れ雪で止まった。鎖場の降りには難は無かった。
ヒラタケシメジ	14:30	三条男が立ち木に張り付いているキノコを見つけた。俺がルート下に降りて採る。裏側にも雪面に混じって沢山付いていた。一部石づきが凍っていたので、ピッケルを抜き掻き落して大収穫となった。
中央登山道標柱	14:50	更に雪が腐ってきてカンジキでも時折抜かる。同キノコを見つけ杉林との境目まで降りて採る。但し一つだけだった。ルートに登り帰さず杉中を進み二人と合流する。
最終除雪地点	15:40	栗ヶ岳で一番怖い箇所は雪が乗り上がったときの堰堤渡りだと三条男が言う。ヒラタケシメジは冬の贈り物とも言うTから聞く。Tが少し、大部分を俺が貰う。

3年前の春山でここに入った。当日は、快晴の放射冷却。ピッケルも一度では歯が立たない程の冷え込みだった。そして4合目過ぎの尾根のせり上がった雪稜と小屋手前の急登には怖さを感じた。その感覚をもう一度確かめたくてこの山に向かうことにした。平日で入山者が無いことは予想でき、一人では少し淋しいので、加茂市の山仲高橋誠一さんに前々夜電話した。ありがたいことに同行を速諾して下さった。雪質は異なるが、やはり、有雪期のこの山は侮れない。